

者はかつて養父郡氷の山々麓大久保で道路上を歩いている黄金色に輝いて見える本種に出会い驚き同時に喜んだものである。この標本は澤田高平博士に同定をお願いして同博士の手許に保管されている (lex., 2—Ⅶ—1956, T. Takahashi leg. ) それ以後県下からの記録が意外と無い、筆者の知り得たものは多紀郡篠山町上籠坊 [仲田, 1982]。豊岡市内 [高橋, 1975] の2ヶ所位である。原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ) (1985) によると平地、低山地にすむとあるからもっと記録があっても良いと思うのだが、1992年6月1日午前8時頃久方振りの快晴の太陽の照る神戸市烏原貯水池畔の道路上を美しい黄金色をしたキンボシハネカクシが歩いているのに出会った。実に36年振りの出会いであった。このような身近な所にいることがわかり大変喜んでいる。生きて歩いている時は黄金色に見えるのだが標本になるとあまり美しいとは思われない。ハネカクシの中では大形の種に属すると思われる (体長16.0—19.0mmとある)。注意して頂けるともっと産地が多くあるのではないだろうか。

## クロオビツツハムシの新産地

( 兵 庫 県 産 甲 虫 相 資 料 . 2 6 9 )

高 橋 寿 郎

クロオビツツハムシ *Physosmaragdina nigrifrons* (Hope) はハッキリした色彩をしていて見ようによっては派手で美しいハムシであり夏のハムシとして、またススキを食草としているハムシでも知られている。本種の兵庫県での分布は筆者本誌上 (Vol. 19, No. 1, 1991) に報告しておいたが1992年7月29日蜂谷幸雄氏は神戸市西区寺谷のススキに多くいるのを目撃されカラー写真に撮影同時に採集をしてその内の1頭を御恵与頂いた。また同じ年の8月6, 7日に兵庫県生物学会夏期研修会が笠形山でありそこで本種が採集されている記録が真野育三氏によってされている (兵庫生物ニュース No. 9 : 47, 1992)。現在の所兵庫県下での記録で一番北の地点がこの笠形山になると考えられている。瀬戸内に面した海岸線に近い地域には広く分布していることがわかっているが北の方の記録が全く知られていない。このあたりの分布がどうなのか調べて見たいと思っている。末筆ながら写真並びに標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。